

令和8年度 第2回海老名市子ども・子育て会議結果

審 議 会 等 名	令和8年度 第2回海老名市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和8年8月4日（火）10時から12時まで
場 所	えびなこどもセンター1階 健診室
出 席 者	子ども・子育て会議委員11名 中尾 隆徳 委員長、奥泉 憲 副委員長、水上 信一 委員、 富樫 大郎 委員、山口 勝広 委員、米山 珠枝 委員、 里村 修平 委員、下澤 奈未 委員、花岡 恵理 委員、樋口 真未 委員、 酒寄 香純 委員 （欠席者4名：北村 真理 委員、櫻井 慶一郎 委員、松島 希 委員、須田 拓海 委員） 海老名市 保健福祉部子育て担当部長 山田 志保 こども育成課長 河野 静江 こども政策係長 伊藤 景子 こども政策係主任主事 三橋 一輝 こども政策係主事補 早川 剛生 保育・幼稚園課長 小柴 賢明
傍 聴 人 数	0名
公 開 の 可 否	☒ 公開 ☐ 一部非公開 ☐ 非公開
一部非公開・非公開の理由	
報 告	こども誰でも通園制度の実施園の変更予定について(報告)
議 題	こども・若者に関する調査審議(委員による意見交換)

○会議の内容

1 開会	
【事務局】	本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまより令和8年度第2回海老名市子ども・子育て会議を開催いたします。 本日は報告事項に加え、通常の審議事項とは少し趣向を変え、委員の皆様によるグループワークを予定しております。子ども・子育て会議の審議事項は、子ども・子育て支援法に定められており、その第1項第5号において「市町村における子ども・子育て支援施策の総合的かつ計画的な推進に関し必要な事項及び当該施策の実施状況を調査審議すること」とされています。今回のグループワークは、この「調査審議」の一つの手法として、委員の皆様それぞれのお立場やご経験をもとに、相互に意見交換をしていただきながら、子ども・子育てを取り巻く現状や課題について認識を深めていただくことを目的としております。 本日は進行の都合上、先に報告事項をご説明し、その後、議事としてグループワークを行いたいと思います。
2 報告	
【事務局】	報告の「こども誰でも通園制度の実施園の変更予定について」、保育・幼稚園課から説明をお願いします。
【保育・幼稚園課】	「こども誰でも通園制度の実施園の変更予定について」説明 当初、中新田保育園での実施を予定していましたが、同園が市街化調整区域に位置するため開発における手続きが必要となり、認可取得までの間は門沢橋保育園にて実施していました。このたび、手続きの見通しが立ったことから、当初の予定通り中新田保育園での実施に変更する予定であります。
【事務局】	こちらは報告事項となりますのでご了承願います。それでは、報告については、以上となります。
3 議題	
【事務局】	それでは、「こども・若者に関する調査審議（委員による意見交換）」に移ります。
【委員長】	海老名市では、「みんなでつくる えびなのみらい こどものみらい」を基本理念に掲げ、こども・若者も含めた市民全員が主体となって、笑顔輝く優しい海老名市の未来をみんなでつくることを目指しています。 こどもたちが健やかに育つためには、保護者をはじめ、保育園・幼稚園・学校・地域など、日々こどもと関わる多くの方々の存在が欠かせません。そして、こどもを支える人たちが安心して、前向きな気持ちで向き合えることも、とても大切なことだと思います。 一方で、子育てや保育、教育、地域活動など、それぞれの立場で様々な悩みや負担を抱えながら奮闘されていることも少なくありません。 本日は、保護者や保育・教育関係者、地域で活動されている方など、多様なお立場の方にご参加いただいております。それぞれの経験や思いを共有し、お互いの立場を知る機会としていただければと思います。
【委 員】	〈事務局説明の後、委員でのグループワーク実施〉
【事務局】	皆様が考えていただいたご意見について、グループごとに発表をしていたきたいと思います。

	(テーマ：こどもを支える人を支えるために大切なこと)
【グループA代表委員】	〈グループAの発表〉 「働き方改革の推進の重要性『よりそいと仕組み～東京水準～』」 子どもを支えるためには、その周りにいる家族や地域が元気であることが重要であり、そのために学童の無償化やデジタル化、家事代行など多角的な支援策を充実させることが必要であると考えました。
【グループB代表委員】	〈グループBの発表〉 「子育てのフォローを地域で協力することの重要性」 子育てのフォローを地域の方々にかかわっていただき、毎日でなくとも、可能な日や空き時間に関わっていただだけで、保護者にとって大きな支えとなると考えました。
【グループC代表委員】	〈グループCの発表〉 「当事者の意識改革・意識の向上、保育者と保護者の相互の理解を深めることが大切」 切れ目のない支援に向けて、まずは気軽に情報共有や連携を行って、架け橋をより身近なものとし、ハードルを下げることで、誰もが気軽につながれる仕組みづくりを目指したいと考えました。
【事務局】	皆様ありがとうございました。それでは皆様の発表が終わりましたので、ここで中尾委員長から総括をお願いします。
【委員長】	〈委員長の総括〉 本日は幅広い世代・分野にわたるテーマについて、活発なご意見をいただきました。グループワーク形式で進めたことにより、参加者の皆様それぞれの率直なお考えや本音をお聞きすることができ、大変有意義な場となりました。今回の議論を通じて互いの意見や課題を共有できたことで、今後の会議においてもより円滑な議論につながるものと考えております。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
【事務局】	委員長ありがとうございました。 最後になりますが、副委員長から何かございますでしょうか。
【副委員長】	何事も一人で抱え込まず、地域みんなで連携・協力しながら取り組むことが大切だと思いました。
【事務局】	副委員長ありがとうございました。 それでは、「こども・若者に関する調査審議（委員による意見交換）」については、以上となりますので、このまま閉会に移ります。
4 閉会	
【事務局】	本日は、会議にご出席いただきましてありがとうございました。また、ワークショップへのご参加も誠にありがとうございました。 こどもを取り巻く現状や、こどもを支える方々への支援について、多くの気づきや共通する視点を共有することができたと思います。 本日いただいたご意見につきましては、事務局で整理し、今後の事業運営や施策を検討する際の参考とさせていただきます。